

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【群馬県】

1 実践テーマ	【Ⅲ V】
2 実施対象者	吾妻郡長野原町立北軽井沢小学校1～6年 88名 職員14名 // 応桑小学校5, 6年 17名（講演会1のみ） 職員4名 // 西中学校1～3年 61名（講演会1のみ） 職員10名 保護者及び地域住民
3 展開の形式	（1）学校における活動 ① 教科名（体育 特別活動 道徳） ② 行事名（講演会1 講演会2 スケート校外学習） ③ その他（ ）
4 目標 （ねらい）	本事業を活用することで、教育活動全般を通してオリンピック、パラリンピックに関する児童の興味関心の向上を図る。 さらに、スポーツを楽しむことを前提として、規範意識の涵養や共生社会、異文化に対する理解の機会として活用し、児童が今後、生涯に渡りスポーツに親しむ素地を育てていく。
5 取組内容	○学校朝礼「スケートが滑る理由」（校外授業のプレ授業として） ○PTA活動；リンク管理等（水まき、雪はき作業）における学校と保護者との連携 ○各教科 ・1964年東京オリンピック（社会 新しい日本平和な日本へ） ・12～1月の間のスピードスケートの導入（体育） ・スケート校外学習でのオリンピックによる指導（体育） ・「位置について よーい どん」の国際的コールの体験（外国語） ・「オリンピックになるための望ましい食生活」（家庭科） ・バスケットボール 3on3（体育） ○特別活動 講演会（高崎健康福祉大学スケート部監督及び部員；オリンピックによる講演会）への地域住民、保護者、隣接校の応桑小5, 6年生や西中1～3年生への参加呼びかけ ・「3つの東京オリンピックを大研究」（図書館教育で購入） ・「ふるさと長野原と私のスケート人生」（講師 入澤孝一氏）

	<ul style="list-style-type: none"> ・「オリンピック選手になるために～食習慣とスケート競技」 (講師 小原悠里氏) (講演会をキャリア教育として位置づけた活用) ・「夢をもとう」プロスポーツ選手の小学校時代の夢から (5年生特活授業) <p>○道徳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィギアスケート鈴木明子「自分を信じて」(光村図書 6年) ・パラ陸上谷真海「より遠くへ」(光村図書 4年) <p>○体育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スケート校外学習へのオリンピック招聘 (孺恋高校スケート場での校外学習の際に、孺恋高校出身のオリンピックによる児童への直接の実技指導 黒岩敏幸氏 黒岩康志氏 宮崎今朝人氏 熊川輝男氏) <p>○児童集会(体育集会)英語でよーいドン、講演会の講師紹介</p> <p>○学校行事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演会1の実施(講師:高崎健康福祉大教授 入澤孝一氏) (// スケート部員 小原悠里氏) ・講演会2の実施(講師:沖野スポーツ代表 沖野敦郎氏) (:中京大学陸上部 池田樹生氏)
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> ○オリンピック出場を果たした選手や、パラリンピック出場を目指す選手と直接交流することができ、関心や意欲が高まった。 ○スポーツのもつ価値や意義は、勝敗に固執することなく得られることを理解した。 ○自らの生活への振り返りを通して、共生社会における望ましい態度について理解した。 ○冬季の体力作りとして、学校リンクの活用と維持管理について学校と保護者と連携しながら継続できた。 ○職員自身のスケートの基本技術に関する指導法の研修になった。
7実践において工夫した点(事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> ○日常の教育活動への関連づけを図ることで、無理なく、確実に事業の推進を図れた。 ○冬季の運動であるスピードスケートに重点を置くなど、地域や学校の特色を活かし、保護者との連携を図った実践ができた。 ○地元出身の講師を招聘することで、実践を身近に感じることができた。(入澤氏、黒岩氏、熊川氏、宮崎氏)また、講演会に応募し、長西中も参加するに際して、児童生徒の輸送についても町教委から支援をいただいた。 ○県の支援を受けることで、義足のアスリートや義肢装具士を講師として招聘して、児童にとっては非日常的な義足について間近に触れることができた。また、運動の基本である「走ること」に意識を集中できたので、体を動かす楽しさを実感できた。
8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ○教育課程での関連づけによる一層の充実 道徳、学活、総合、外国語、体育等との効果的な連携に向けた教育課程の工夫。 ○講師招聘にかかわる日程調整 現役選手の場合には、大会日程等と学教行事日程とのすりあわせに時間がかかった。しかし、健康体育課の担当者に間に入っていたので、パラアスリートを招聘することができた。アスリート

	の年間スケジュールが明確になっていると計画しやすい。
9来年度以降 の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> ○教育活動への一層の関連づけ（複合的な視点による関連づけの見直し作業の継続；一つの事業で複数の教科への影響） ○講師招聘予算の工面（講師がテレビ出演をしている方に依頼すれば、それなりの金額が必要になる。）

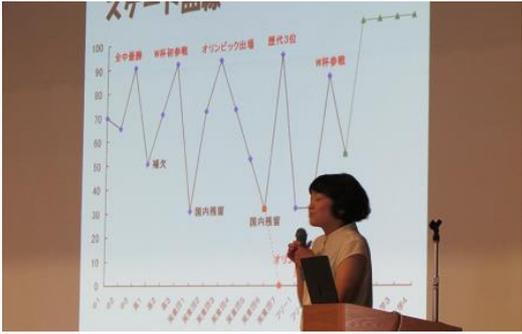
	
<p>図1 講演会1（入澤氏） 「ふるさと長野原と私のスケート人生」</p>	<p>図2 講演会1（小原氏） 「オリンピック選手になるために～食習慣とスケート競技」</p>
	
<p>図3 スケート授業1 2年生はシーズン始めでもスイスイと</p>	<p>図4 リンク整備（保護者による早朝の雪かき） 朝6～7時の間に班体制で雪かき</p>
	
<p>図5 スケート授業2 立つのが難しいスピードスケート</p>	<p>図6 スケート授業3 紐をきつくしばって足下の安定を</p>



図7 放課後のスケート教室
授業ではないので担任以外の指導もある



図8 スケート場の水まき
午後4時過ぎに職員が毎日の水まき



図9 朝礼「氷上はどうして滑る？」
6年生がスケート靴をはいて登場



図10 6年生が1年生のお手伝い
小規模校なので全員顔見知り



図10 スケート校外学習1
楽しみながらの基本練習



図11 スケート校外学習2
オリンピックによる個別指導



図12 スケート校外学習3
低学年には目線を合わせての指導



図13 スケート校外学習4
オリンピック指導者から小学生に伝えたいこと



図 14 スケート校外学習5
メダリストが本物の銀メダルを持参



図 15 スケート授業公開
今季の上達の様子を保護者に公開



図 16 パラアスリート講演会1
幼少期はサッカーも楽しむ



図 17 パラアスリート講演会2
義足はバランスを取るのが難しく



図 18 パラアスリート講演会3
筋肉も関節も健常者同様に動く



図 19 パラアスリート講演会4
めがねも義足も不自由を補う道具

学級通信を活用した家庭への事業報告



がんばる力は、自分でつくる!!

④ 今日(9日)、オリンピックのスケート選手権に参観してきました。いろいろな選手がいて、とても面白かったです。アツという間に時間がたっていました。がんばる力は、自分でつくる!! という言葉を藤川先生から聞いて、何でも、できなくても、がんばろうと思えました。

⑤ オリンピックのスケート選手権に参観してきました。いろいろな選手がいて、とても面白かったです。アツという間に時間がたっていました。がんばる力は、自分でつくる!! という言葉を藤川先生から聞いて、何でも、できなくても、がんばろうと思えました。

⑥ オリンピックのスケート選手権に参観してきました。いろいろな選手がいて、とても面白かったです。アツという間に時間がたっていました。がんばる力は、自分でつくる!! という言葉を藤川先生から聞いて、何でも、できなくても、がんばろうと思えました。

北条小の子どもは、とても体が丈夫で、スケートが大好きです。今日は、スケートが大好きな子どもたち、お母さんたちと一緒に、スケートを楽しみました。みんな、とても楽しそうに滑っていました。お母さんたちも、子どもたちと一緒に滑っていました。みんな、とても楽しそうに滑っていました。お母さんたちも、子どもたちと一緒に滑っていました。

北条小の子どもは、とても体が丈夫で、スケートが大好きです。今日は、スケートが大好きな子どもたち、お母さんたちと一緒に、スケートを楽しみました。みんな、とても楽しそうに滑っていました。お母さんたちも、子どもたちと一緒に滑っていました。みんな、とても楽しそうに滑っていました。お母さんたちも、子どもたちと一緒に滑っていました。

小学校最後のスケート公開授業

1	再木	結衣
2	黒岩	あかり
3	佐藤	凜
4	下谷	佳菜 (開業)
5	武者	颯麻
6	岡村	颯
7	池上	敬一
8	及川	涼磨 (朝陽)
9	高井	隼人 (柳)
10	大北	蒼史
11	黒岩	幸太
12	梶野	陽菜
13	黒岩	穂斗
14	再木	裕希
15	中尾	心風
16	今井	朝陽

滑走順

10時20分より6年
のスケートが始まり、
各自の得意な滑り
姿を見せてくださ
い。

パラアスリート講演会 (児童アンケートから)

- 視力が低ければめがねをかけるのと同じように、足がなければ義足を使うというのは特別なことではないことと言われたのが印象に残った。
- 最初はかわいそうなイメージだったけれど、最後には楽しいイメージだった。
- 義足をはいたら、スケートぐつをはいているような感じだった。
- 今回は義足体験ができなかったのですが、機会があれば体験してみたい。
- わたしは健康だし、手足はあるけれど「これがいや、あれがやりたくない」とわがままばかり言っていた。「障害は不便だけれど、不幸ではない 後悔はない」という言葉が印象に残った。